

思考コードで入試問題を徹底解剖！

(学校が求める思考力が見えてくる)

2019 年度 武蔵 (国語)

思考コードの割合比較

			2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年
変換操作	全体関係	変容 3	A3		10% B3	23%	C3	
複雑操作	カテゴライズ	複雑 2	15% A2		10% B2	23%	C2	
手順操作	単純関係	単純 1	30% A1	46%	35% B1	8%	C1	
(数)	(言語)	合計	45%	46%	55%	54%		
			A 知識・理解思考		B 論理的思考		C 創造的思考	
			知識・理解		応用・論理		批判・創造	

*全設問数に対する割合を算出しています

文章の内容によって問題の作り方が変わることから、本年は知識・理解思考が問われる A の問題が減少し、論理的思考が問われる B の問題が増加しました。しかも、太平洋戦争末期の特攻隊を題材にした小説文であったため、戦争時中の時代背景、その時代の人々の思いを推量するという意味で難問が多くなりました。

□ 小説文 A1、B1~B3

沖縄の島に不時着した特攻隊の乗組員と島の人々との心の通じ合いを通して、さまざまな形で戦争と関わる人々のかっとうと理解、戦争が生み出す理不尽さを表現した文章です。

問一の①は、場面から「三万円の棺桶」が不時着した戦闘機を意味していることを理解し、三万円とは何をいうのかを考えます。②は、「棺桶」が死者を収めるひつぎであることから、特攻隊は命に代えて攻撃するという意味だということを読み取ります。棺桶という比喩が理解できるかがポイントです。問二は、「(戦争なんだから) しかたがない」という言葉が戦死した息子の葬式の時の言葉であることから、子どもを失った怒りや悲しみを無理やりに押さえつけようとしている点に目を向けます。問三は、同じ「しかたがない」が異なる意味で使われている点に気をつけます。「不時着した戦闘機が畑を荒らしたことは無理がないことだから許してもらえる」という意味で使われています。この点に気をつけてまとめます。

問四は、女学生たちが特攻に志願した兵士に成功を願って渡した人形がなぜ「呪い」になるのかを考えます。特攻が成功するということは、生きて帰らないということを願っていることになるので、それが「呪い」ということにつながることを理解できるかが問われています。問五は、特攻機が島を守っているという主人公の言葉に、それは別の意味があったのだということを乗組員が話している点を読み取ります。主人公が考えていることと乗組員が考えていることの違いを比べながら、乗組員の話したことの意味を記述します。問六は、乗組員が敵に体当たりして死んで神になることを目的としているのに生

き残ってしまったことを後悔したり、島人の言葉に「生きていてよかった」と涙を流すところなどを見た主人公たちが、同じ人間としての共感を持ったことを読み取ります。

解くための手がかりがほとんど会話文だけなので、言葉の間を補って読み取ることが要求される、難易度の高い問題が多く見られました。